岡山県立博物館だより

31号
10月1日
1988

「瀬戸内に生きる」

―昭和63年度特別展の開催にあたって―

館長 橋本泰夫

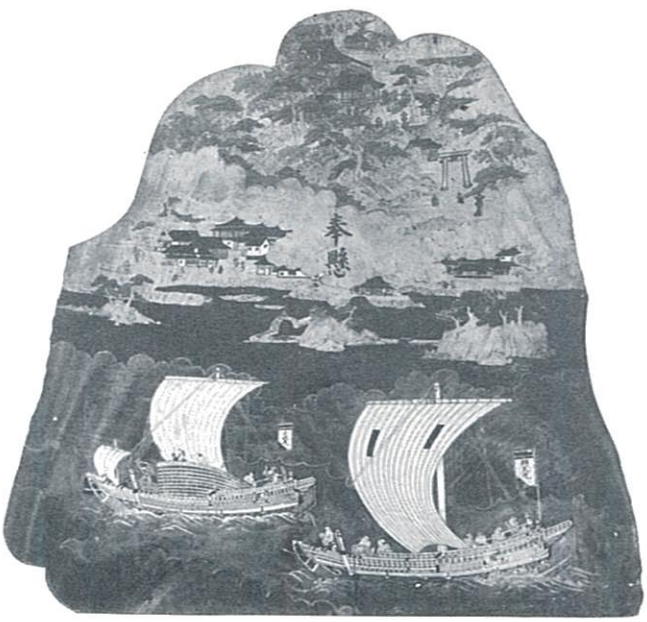
岡山県立博物館では，昭和63年度特別展「瀬戸内に生きる」を10月22日から11月20日まで約1か月間にわたり開催することになりました。

本年4月，193万県民の待望久しかった瀬戸大橋が完成し，岡山県は本州と四国を結ぶ交通の結節点となり，東瀬戸圏の中核地域として新たな発展を迎えることになりました。さきに本館では，瀬戸大橋の着工にあたり昭和56年度に特別展「海のみち」を開催し，先史・古代から現代に至る海のみちの変容とそれにかかる文化の流れについて概観しましたが，今回の特別展は，瀬戸大橋の完成による瀬戸内新時代の幕開けを契機とし，瀬戸内地域の歴史とそこに生きてきた人間の営みの足跡をたどろうとするものです。

今，鷲羽山の頂上から眼下を眺めるとき，穏やかな海が広がり，緑濃き島々が点在し，その間を大型船や漁船などが白い航跡を残しながら往来する瀬戸内海独特の風景が展開されますが，往時，数万年前の瀬戸内の景観は現在とはすっかり様相を異にし，四国とは陸続きで，草地や湿地帯・沼などが広がっていたと考えられます。縄文時代早期末の気温の温暖化による海進の結果，今日の瀬戸内海が形成されるわけですが，以来この内海は豊かな資源と安定した海のみちを背景にそこに住む人びとのくらしに大きくかかわり，多種の産業と豊かな文化を育んでまいりました。

本展にも出陳され，中世の瀬戸内の様子を知る貴重な資料である「兵庫北関入船納帳」には，備前・備中だけでも18の船籍地が記され，さらには塩・干魚・海草などの海産物が多量に交易されている状況がみられ，海上輸送や生産・加工など人びとの活発な海とのかかわりあいを示しています。また，瀬戸内沿岸にある寺社には，豊漁や操業の安全を願うなど漁業につながる絵馬が数多く残されており，海に生きる人びとのなりわい，信仰などがうかがわれます。さらに近世に入ると遠浅の海岸を利用して大規模な新田開発が盛んに進められ，綿・藺草などの商品作物の栽培，それらに伴う機業・藺業などの在来産業の発展をもたらし，これらは後年の近代産業発展の素地を形成していくことになるのですが，それにつれて瀬戸内に生きる人びとのくらしも徐々に変化の様相を濃くしていくことになります。このように瀬戸内海は，岡山県の歴史・文化の流れに大きなインパクトを与え続けてきたところですが，最近における環境問題，リゾート関係構想，瀬戸大橋の開通など瀬戸内海をめぐる状況は大きく様変わりしようとしています。そうしたなかでこの展覧会をとおして，「母なる瀬戸内海」について，もう一度その歴史と人びととのかかわりあいをふり返り，新時代にふさわしい視点から瀬戸内海の将来を考えていただく一助になれば幸いであります。

終わりになりましたが，今回の展覧会への出品をこころよく御承諾くださいました所蔵者の方々をはじめ，御協力を賜りました皆様に心から御礼を申しあげます。



廻船図絵馬（邑久町尻海・若宮八幡宮蔵）

昭和63年度特別展

「瀬戸内に生きる」

10. 22～11. 20

縄文海進の進行した縄文時代早期以後，格好の漁場となる多くの島々を浮かべた内海が出現すると，瀬戸内沿岸の生活は，漁撈，製塩などの海の幸に依存する生活形態が歴史的に展開する。

縄文時代は勿論，水田が広がる弥生時代にあっても，古墳時代の生活でも，海の幸に依存する生活は一層の発展をみせている。殊に弥生時代の終末期から古墳時代になると，海浜における漁撈，製塩を行う集団が社会的分業の形態で成立し，文化的にも農業地域と分離していった。

古代において海部と呼ばれた集団は，おおむねそうした海浜生活者集団を指している。しかし，弥生時代からの歴史的発展は，これら海浜生活者の仕事の上に，海上交通の舟航にたずさわる技能労働を重要な役割として加えることとなった。吉備海部直と呼ばれた一族は百済への渡航に関与した伝承をもっている。

政治的社会の成立以後，多量の物質や，大勢の人を輸送することのできる舟運はますます重要視され，瀬戸内海は日本の大動脈として機能するに至った。奈良時代の遣唐使船をはじめ，中世の天竜寺船や朱印船など，大陸と日本を結ぶ航路はいずれも瀬戸内海を通る航路であったし，近世でも瀬戸内海運の重要性は変わらず，北前船などの国内海運により，北海道から南九州にわたる広い地域の物資が瀬戸内を通過していた。

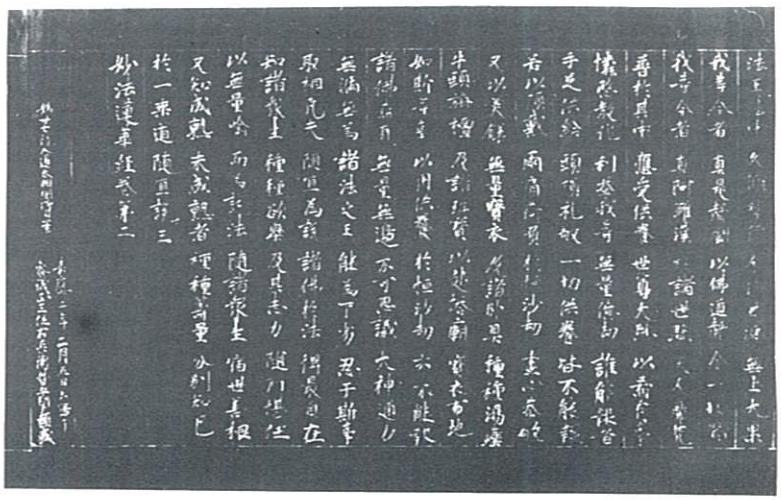
瀬戸内海航路の確立は極めて早く，奈良時代のうちに官吏の旅行に船便を使用することが指示されているが，それは，すでに連日のように往来する船が存在していたことを示している。中世になると兵庫北関に入港する大小の船は，年間を通じて一日平均7隻に達している。これは瀬戸内海をめぐる沿岸地域が，古くから開けた地域であったこととかかわっている。しかし，歴史の展開のなかで，古くから開け，船便など交通に便な条件は，その地域に生活する人々にとって，常に恵まれた条件となるものではない。

村上武吉標旗（個人蔵）

原始時代から瀬戸内に生きた人々の生活環境も，歴史的な時代の変遷につれて変動し，部分的な漁法などを除けば近代にまで古い昔の姿を止めているものはない。古い生活技術を伝える海浜生活者の生活も，そうした生活が時代を越えて継続していたものとは考えられず，政治的，経済的環境の変化のなかで，絶えず再編成されていたものだろう。

海島のつづる美しい自然に囲まれた瀬戸内の生活も，決してのどかで平穏なものではなかった。古代国家体制のゆるむ9世紀に入ると，早くも紀伊水道を含む瀬戸内一帯に海賊の横行が伝えられている。この背景には，勢家豪民による海浜，島嶼の独占のため，この地域で生活していた海浜生活者たちの生活維持に必要な生活圏の破壊がうかがわれる。日本後紀が伝える799年（延暦18年）の備前国の要請にみられるように，庄園獲得に狂奔する勢家豪民により山野浜島が占拠され児島郡の民の生活が脅かされているが，この情況は，806年（大同元年）の格によれば山陽道観察使藤原朝臣園人の報告にもみられ，児島だけでなく瀬戸内一帯に同じ情況が進行していたと考えられるものであった。

庄園が海人たちの生活に深刻な影響を与えたのは，塩の生産を掌握しようとして砂浜や付近の山が庄園として囲い込まれたことであり，部族的なつながりの中で小規模な農業，漁業，製塩などの複合した生活をおくっていた海人たちの多くは，これまで自由に使用



国宝　法華経〔平清盛・頼盛合筆〕（広島県・厳島神社蔵）

していた無人の海浜から排除されることとなった。

封建的な土地所有の拡大のもとで海人たちは，庄園内に取り込まれる者と，排除される者に二分されざるをえなかったと推定されるが，その結果，私的な土地支配の及ばない海上は，ある意味で海賊の跋扈する無法地帯となったようである。

883年（元慶７年）備前国が海賊に備えて配置した傭兵224人は，備前国の持つ武力である健男数50人に比べて極めて強大な兵力の配備であり，その頃の海賊の数と力を裏書するものである。

もちろん，海人の多くが海賊行為をはたらいていたわけではない。しかし，政治的支配の外にいた人々の姿は，為政者の目には海賊と区別のつかないものであっただろう。

中世に姿をみせる海賊衆の多くは，水上の武力を背景に権力機構の末端に位置し，あるいは戦国大名として成長するものなど庄園を蚕食して成立する封建領主であり，海賊からの警護を名目にした海賊行為を別にすれば内陸部の封建領主とそれほど異質なものではない。

こうした前史をうけて，近世においても，土地支配を基盤とした封建支配は，百姓として支配を受けながら兼業的に漁業を営む者を除けば，土地からはなれた海上生活者を完全に掌握することはできなかったようである。

漁民の生活が，漁獲物を売ることによって支えられていたことは当然であるが，中世では魚の流通は主に塩合物として行われていたと考えられている。しかし，土地から離れた零細な漁民が漁獲物を塩合物に加工することは困難である。したがって零細な漁民の生活が成立するためには，仲介の商人や鮮魚の市場が存在していたと推定しなければならない。

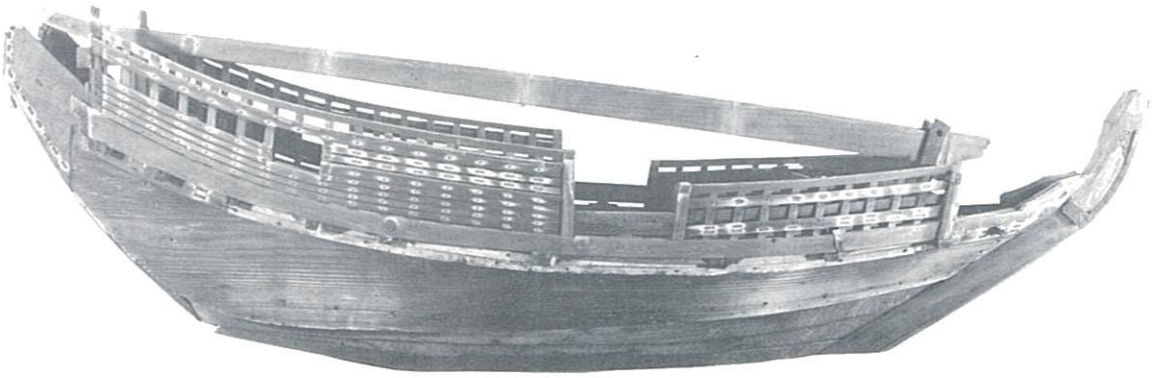
このことを裏書するように，1444年（文安元年）から1445年（文安２年）にかけての兵庫北関の関銭算用帳には鮮魚類を商うと考えられる無塩船や介汲船が記載されている。また，こうした鮮魚市場が地方にも広がっていたと考えられるのは，西大寺観音院境内図裏書にみられる魚座が，鮮魚を販売したと考えられる船単位で記されていることからもうかがうことができる。

鯛網漁図絵馬〔部分〕（香川県・恵美須神社蔵）

瀬戸内海を舞台にして展開された人々の生活の歴史は，決して豊かな自然に恵まれたおだやかなもののみではない。豊かであればあるだけ争奪の的となり，人々の生活は脅かされることが多かったと言えるだろう。

この特別展では，それらを越えてつづられた地域の歴史と，生活を振り返ってみたい。瀬戸大橋の架橋に人々の明日への夢が託され，その一方で瀬戸内海の環境汚染の危機が危ぶまれている今日，瀬戸内地域の歴史と生活のあとをたどることは有意義なことであろう。

（副館長　高橋　護）



奉納廻船（岡山市・石門別神社蔵）

主要な展示資料

◉国　宝
◎重要文化財
○県指定重要文化財

1．瀬戸内海の歴史的諸相

(1)絵巻等に描かれた瀬戸内海

大日本道中図屏風	東京都　三井文庫
◎北野天神縁起	姫路市　津田天満神社
◎法然上人絵伝	奈良県　当麻寺奥院
◎法然上人伝法絵（断簡）	岡山県立博物館
◎琴弾宮絵縁起	観音寺市　観音寺

(2)瀬戸内海海運の流れ

鹿久居千軒遺跡出土資料	日生町教育委員会
船型埴輪	泉大津市　泉大津高校
兵庫北関入船納帳	京都市　燈心文庫
水の子岩海底出土備前焼	岡山県立博物館
○本蓮寺文書	岡山県立博物館
諸国客船帳	個　人
廻船図絵馬	邑久町　若宮八幡宮
尾道絵屏風	尾道市　浄土寺
廻船図絵馬	尾道市　浄土寺
奉納廻船	岡山市　石門別神社
海難絵馬	香川県　広島神社

(3)海の信仰

大飛島祭祀遺跡出土資料	笠岡市教育委員会
櫃石島祭祀遺跡出土資料	香川県埋蔵文化財センター
◉法華経（巻七・巻八）	広島県　厳島神社
◉太刀銘友成作	広島県　厳島神社
◎舞楽面	広島県　厳島神社
◎七絃琴	広島県　厳島神社
◎御判物帖	広島県　厳島神社
源平合戦図	下関市　赤間神宮
安徳天皇縁起絵	下関市　赤間神宮
◎銅製水瓶	愛媛県　大山祇神社
○三島家文書	愛媛県　大山祇神社
大山祇神社古図（写）	愛媛県　大山祇神社

(4)瀬戸内海の水軍（海賊）の動き

宮窪瀬戸海底出土常滑焼大甕	個　人
○足利尊氏御教書	岡山県立博物館
○浄土寺文書	尾道市　浄土寺
寄組村上家文書	個　人
村上武吉標旗	個　人
村上吉充画像	個　人
○因島村上家文書	個　人
見近島遺跡出土備前焼　愛媛県	宮窪町教育委員会

2．瀬戸内地域の生業と生活

(1)在来産業の発達

草戸千軒町遺跡出土資料	福山市　草戸千軒町遺跡調査研究所
◎東寺百合文書	京都市　京都府立総合資料館
明石浦赤穂塩田図屏風	東京都　たばこと塩の博物館
厳島図屏風	東京都　サントリー美術館
製塩用具	赤穂市　赤穂市塩業資料館
塩廻船（模型）	赤穂市　赤穂市塩業資料館
月の輪古墳出土鉄鏃	柵原町教育委員会
殖蘭図巻	個　人

(2)水産業の展開

縄文・古墳時代漁具	岡山県立博物館
江戸時代漁具	岩国市　岩国徴古館
鯛網漁図絵馬	香川県　恵比須神社
鯛網船と手船（複製）	詫間町立民俗資料館
◎内海漁業漁具　香川県	瀬戸内海歴史民俗資料館
○児島湾干潟漁業図絵馬	岡山市　御崎神社
平城宮出土木簡（複製）	原品　奈良国立文化財研究所
西大寺観音院境内図	岡山市　観音院
一宮社法	岡山市　吉備津彦神社
吉備津宮旧記	岡山市　吉備津神社
他国行願留帳	岡山大学附属図書館
浮鯛絵巻	三原歴史民俗資料館
浮鯛抄	個　人
内海漁業生活用具	因島市史料館

記念講演会

日時：11月5日（土）13：30～15：30
場所：岡山県立博物館講堂
講師：関西大学文学部教授　河野通博
演題：「瀬戸内の暮らし」
　　－内海漁業を中心に－

岡山県立博物館だより　No.31
発行日　昭和63年10月1日
発行者　岡山県立博物館
館長　橋本泰夫
岡山市後楽園1-5
☎（岡山）72-1149